

技術フォーラム ニュース

シンポジウム : 生物多様性

日時:平成 23 年 8 月 27 日(土) 10:00~12:00
 場所:港区赤坂区民センター第一会議室
 講師:NPO 法人自然観察指導員埼玉 代表理事
 小峯 昇氏
 進行: 理事長 原田 敬美 工博 技術士
 司会: 野本優人 技術士

I 挨拶: 原田敬美技術フォーラム理事長

皆さんおはようございます。本日は「生物多様性」ということについてお話いただきます。2010年10月に名古屋でこのことに関する大きな国際大会が開催されました。最近では地球環境についてサミットなどの場で世界の首脳がこのテーマをとりあげるようになってきました。地球全体では数千万という生物が生存しています。そういったなかで我々は家、建物、公園などを作っていますが、



これからは環境問題をしっかり考えてゆく時代に入ってきています。都市計画、教育基本計画、福祉基本計画などを自治体が

作っています。「生物多様性」についても埼玉、栃木、千葉では基本計画が既に作られています。一方政治の世界で「生物多様性」について議論する場合必ず関係者の利権がからんできます。生物について言いますと細胞なり種なりが医療、農業ビジネスにつながってくる訳です。マーケット規模は50兆円とも100兆円とも言われています。昨年名古屋で開催された国際会議でもこれらについて議論されました。例えば途上国側が「自分たちの国土の大切な種や土壌を先進国が持ち去って医薬品などを開発して大儲けしている。過去の損害を払って欲しい。」と主張し、先進国側は「多大な開発コストがかかっていることを理解して欲しい。」などの話し合いが行われた訳です。今後「生物多様性」は国や国際レベルで大きな話題になってきます。本日、先生のお話を様々な視点で聞かせていただき、われわれの参考にできればと考えております。

司会: 野本優人氏

本日ご公演をしてくださる小峯先生は「NPO 法人自然観察指導員埼玉 代表理事」「さいたま緑のトラスト協会 理事」「埼玉県立 上尾鷹の台高校 教諭」でいらっしゃいます。それでは先生よろしくお願ひします。

II 小峯先生のご講演 (要旨)

おはようございます。ただいまご紹介いただきました小峯と申します。よろしくお願ひします。

上尾鷹の台高校の名前の由来はこの地の自然環境です。学校の周りにはオオタカが住んでいま



す。2つの高校が統合されて新しい学校に変わる時、合宿所にオオタカが飛び込んできた

ことから校名が決まりました。

「生物多様性」というとやや硬い印象ですが簡単に言い換えると「生き物のにぎわい」ということです。また、その環境や生物同士の関わり合いも全てまとめて「生物多様性」といわれることもあります。

2010年は「国際生物多様性年」でした。2011年は「国際森林年」となっています。

さて「生物多様性」には3つのレベルがあります。

- 1) 生態系の多様性; 環境も含めたいろいろなタイプの自然がある
- 2) 種の多様性; いろいろな生き物がいる
- 3) 遺伝子の多様性; 同種内でもいろいろな遺伝子がある

ということです。

「1)生態系の多様性」についてお話しします。谷津干潟はご存知だと思います。建物に囲まれ孤立し、ゴミ捨て場と化していました。埋め立て寸前であったものを再生整備し保全されたものです。このような干潟は昔、東京湾全域にありました。

また京都府の北山のように杉の植林地もきちんと手入れのされているところは、自然環境を守ると

共に品質のよい材木がとれ、経済的に成り立っています。双方のバランスが取れている例です。

次に「2)種の多様性」についてお話します。これは、いろいろな生き物がいるということです。例えば我々の周りにはヤモリ(家を守る)やイモリ(井戸を守る)がいます。ヤモリは爬虫類でイモリは両生類です。ヤモリは夜行性でなかなか見つかりませんが東京にもいます。イタチは水辺を好み、埼玉県には多く生息します。ダイサギやカワセミも水辺で良く見かけます。

次は「3)遺伝子の多様性」についてです。同じ人間でも顔がそれぞれ違うようなものです。同種内でも遺伝子はそれぞれ異なっており、環境の変化に耐えて生き抜くための要素となっているのです。遺伝子のバラエティが無くなり、同一化されると大変危険なことになってしまいます。

「ケネディを大統領にした微生物」という本をご存知でしょうか。1845年アイルランドでジャガイモの病気が大流行しました。食糧難で100万人が餓死しケネディの先祖を含む200万人がアメリカに移住したのです。ジャガイモの原産地であるインカ地方には4000種類のジャガイモがあります。雨期に強い種、乾期に強い種など天候の変化に対応したものを食料にしているのです。元来植物は種類が多い程、耐菌性が強いものです。ところがこれを導入したヨーロッパでは収穫量の多い単一品種だけを栽培したため耐菌性がなくなってしまう、飢饉が起こったのです。

次は生物多様性に対する4つの危機です。

第1の危機;

人間活動、開発に伴う種の絶滅、生態系の破壊

第2の危機;

自然に対する人間の働きかけが減ったことの影響

第3の危機;

移入種(外来生物)や化学物質による影響

第4の危機;

地球温暖化による影響

です。

「第1の危機;人間活動、開発に伴う種の絶滅、生態系の破壊」についてお話します。谷のつく地名は昔谷のあったところで、崎の字のつくところは昔岬だったところです。身近な地名に地形を表す言葉が遺っているのです。植物由来の地名もそうです。荻はオギが生えていた湿地を示すところで荻窪、西荻、井荻、上荻などがあります。宅地造成に伴い安易に販売し易い地名に変更すると、その土地の起源が分からなくなってしまいます。

「第2の危機;自然に対する人間の働きかけが減ったことの影響」についてお話します。

人間が手を加え過ぎて自然を壊してしまうのが通例なのですけれども、全く手を加えないがゆえに損なわれる環境もあります。昔人々は雑木林を「薪採取の燃料庫」、「食用植物を採る食料庫」、「落ち葉の肥料庫」などとして使っていました。雑木林が利用されなくなると、常緑樹が生い茂り日も当たらなくなります。落葉樹が常緑樹に置きかわり、雑木林は荒れ、生態系も破壊されていきます。

「第3の危機;移入種(外来生物)や化学物質による影響」についてお話します。

日本固有種への影響が問題になっています。アメリカザリガニは食用としてアメリカから輸入されたウシガエルの餌として、輸入されたものです。これがいつの間にか全国に広がり日本の生態系を破壊していることは良く知られています。化学物質による影響では、ダイオキシンなどの害は当初心配された程では無いことが分かってきました。

「第4の危機;地球温暖化による影響」は一般的に良く知られています。ここでは時間もないので触れないことにします。

日本政府の策定した「第3次生物多様性国家戦略」には次の4つの基本戦略が示されています。

- 1) 「生物多様性」という言葉を社会に浸透させる
- 2) 地域における人と自然の関係を再構築する
- 3) 森、里、川、海のつながりを確保する
- 4) 地球規模の視野を持って行動する

最近「生態系サービス」という言葉が使われていますが、日本語でピッタリ当てはまる良い言葉に「自然の恵み」があります。この、生態系サービスを経済的に数値化しようという試みが最近なされています。干潟は一見なんの価値も無いように見えますがじつは微生物が有機物を分解していて、下水処理施設としての価値があるのです。

最後に、生物多様性条約(CBD)の3つの目標をあげます。

- 1) 生物多様性の保全
- 2) 生物多様性の構成要素の持続可能な利用
- 3) 遺伝子間の利用から生じる利益の公正で衡平な配分

です。このうち3)が今後最も課題となるものと考えられます。

これから「生物多様性」ということに少しでも関心を持っていただければ幸いです。

本日はどうもありがとうございました。

技術フォーラム 活動報告

1) 監査、研修講師派遣等実績

分野	年度	契約先
建築 (電気、機械 含む)	H18年度	荒川区、あきる野市
	H19年度	板橋区(2件)、西東京市、江戸川区、日野市、あきる野市
	H20年度	板橋区(3件)、あきる野市、小平市、杉並区(2件)、上越市、練馬区(2件)、町田市、東村山市、日野市、日光市、西東京市、三鷹市、国分寺市
	H21年度	板橋区(4件)、館林市、富里市、江戸川区(3件)、杉並区(2件)、水戸市、牛久市、上越市、日光市、太田市、練馬区(2件)、墨田区、調布市、八戸市、鹿沼市、鎌倉市、国分寺市、青梅市、八王子市、足利市
	H22年度	館林市、前橋市、小平市、板橋区(2件)、杉並区(3件)、練馬区(調査、修繕計画)、練馬区(2件)、清瀬市、日野市、西東京市、渋谷区、藤沢市、太田市、墨田区、裾野市、八戸市
	H23年度	日野市、所沢市、前橋市、厚木市、練馬区(調査、修繕計画)、八戸市、杉並区、相模原市
土木	H18年度	八王子市
	H19年度	板橋区(3件)、国分寺市
	H20年度	江戸川区(2件)、板橋区(2件)、鎌倉市、和光市、太田市
	H21年度	板橋区、あきる野市、新座市、三鷹市、伊勢崎市、長岡市
	H22年度	館林市、長岡市、前橋市、日光市、上越市、調布市
上下水道	H19年度	小平市
	H20年度	太田市
	H21年度	西東京市、藤沢市、武蔵野市
	H22年度	寒川町、牛久市、秦野市
環境 (清掃工場)	H22年度	八王子市、23区清掃
情報	H18年度	町田市(システム監査研修)
監査研修	H18年度	新座市
	H21年度	習志野市、佐野市
業務監査	H20年度～H22年度	板橋区

2) 当会会員による関連雑誌記事、新聞記事、書籍等

1	「事業の無駄を斬る！技術専門家の目・総論編、建設編、環境編、情報編」 原田敬美、根本泉、高堂彰二、田吹隆明 月刊「地方自治職員研修」2006年1月号～4月号まで連載、公職研
2	「談合の根絶 外部監査で公正性確保」原田敬美 読売新聞「論点」2006年3月2日
3	「私の官民協働のまちづくりー東京港区長奮闘記」原田敬美 学芸出版社 2006.9.10 発行 ISBN4-7615-1217-2
4	「技術には専門の監査が必要だ！」NPO 地域と行政に支える技術フォーラム [編著] R&B ブックス 日刊工業新聞社 2009.7.15 発行
5	『重要性高まる技術内容の「監査」技術士の視点での設計・積算・施工の問題点をチェック』 日経コンストラクション 2009.11.27 号 66 ページから

3) 当会主催のシンポジウム抜粋

1～20	当会ホームページでご覧ください。(http://www.cea.or.jp/efsca/)
21	「組織不祥事の失敗学」 2011年2月26日(土) 港区生涯学習センター
22	「世界のトップサービスの秘密ー帝国ホテルの舞台裏」 2011年5月28日(土) 赤坂区民センター

技術フォーラム 活動予定

1) 監査、研修講師派遣等予定(抜粋)(H23.9月現在)

	対象機関	分野	年月
1	M市、A市	土木	平成23年秋
2	K1市、S区、N1市、M市、K2市、N2市、I市	建築	平成23年秋・冬
3	26市監査委員事務局	「都市政策と監査」講演	平成24年1月

2) シンポジウム予定

今回のシンポジウムを以下にて開催します。

テーマ：人を育てる、社会を変える～VEの可能性はどこまで？

講師：穴戸利彰氏

ソルブ・コンサルティング代表
国際バリュー・スペシャリスト

日時：平成23年11月26日【土】10:00～12:00

場所：港区立新橋生涯学習センター

当シンポジウムへの参加ご希望の方は、氏名、所属を明記の上事務局へ

FAX:03-3404-0734

メール:info.efsc@cea.or.jpまでご連絡ください。

3) 1日監査に関するパンフレット

情報と環境に関する1日監査のパンフレットができました。関係機関に配布します。ご期待ください。

4) その他定例会活動予定

月例会

日時:毎月第2土曜日 10:00～

場所:港区立生涯学習センター

(東日本大震災の影響で変更することがある)

会員であれば、どなたでも自由に参加できます。

5) 会員種別

当会の会員は以下により構成されています。

☆ 正会員 (年会費¥5,000)

☆ 研究会員 (年会費¥3,000)

6) 当会ホームページのご案内

技術フォーラムの活動は、ホームページで詳しくご覧になれます。[\(http://www.cea.or.jp/efsc/\)](http://www.cea.or.jp/efsc/)

このニュースレター1号～15号についても、ご覧いただけます。

編集後記

当NPO法人では、3カ月に1回実施しているシンポジウムの内容を広く皆様に知ってもらうことを大きな目的に、年4回「ニュースレター」を発行しています。今月号は8月に実施したシンポジウム「生物多様性」について、NPO法人自然観察指導員埼玉 代表理事 小峯 昇氏にご講演いただきました内容を抄録しました。自然保護や保全活動に関する講演内容で、参加者の皆さまから、開発と自然保護の調和について考えを新たにすると好評でした。自然保護に対する多様な質疑に対して、懇切な回答も頂きました。

今後とも、皆様方の声をもとに講演内容を考えて行きたいと思っております。講演内容につき、ご要望がある場合は、ぜひ下記ニュースレター事務局までお寄せください。その他のニュースレターに関してのご意見、ご要望も下記ニュースレター事務局までご連絡ください。

ニュースレター事務局: oka@cea.jp

特定非営利活動法人 地域と行政を支える技術フォーラム

〒106-0032 東京都港区六本木 3-14-9 妹尾ビル4階

理事長 原田 敬美